

差出人: 杉本徳久 Sugimoto Norihisa <sugimotonorihisa@gmail.com>

日時: 2018年3月28日 17:41:26 JST

件名: 3/23 調停の後の記事につきまして

前略、ヴィオロン様

杉本徳久です。先の調停の後、次々と記事を書き足されておりますが、このようなことはどうぞお辞め下さい。本来、主の受難を思い、黙想、自省、断食、節制、祈りに努めるべき復活祭前の四旬節に、こうしたことを申し上げたくはありませんでしたが、あまりに目に余りました。

(これも杉本の卑怯さがよく分かる文章である。主の受難を静かに思いたいのであれば、杉本はまず自分が受けた苦しみの意味をまずきちんと神の御前で真正面から問い、自分自身の過ちを真摯に反省し、態度を改めることの方が、こうして人目につかない場所で、気に入らない他人に延々と嫌がらせメールを送りつけるよりはるかに優先課題である。

民事調停は誰もが知っている通り、訴えられた相手のリクエストを一方的に聞くために設けられた場ではない。双方が話し合いを通して歩み寄り、妥協点を見いだして、合意に至る可能性を探るための場であり、それを開くために代価を払ったのも、ヴィオロンである。

それにも関わらず、杉本は、他人の労により開かれた民事調停の場を、ただ自分のリクエストを一方的に述べるための場として利用し、ヴィオロンの主張に一步たりとも譲歩せず、己が非をも認めず、ヴィオロンの請求をすべて「棄却する」と傲慢な姿勢を示し、妥協点を見いだすための努力を一切放棄しないまま、答弁書さえ期日当日になって提出した。

その答弁書において、杉本は、自分の記した人権侵害の記事を削除することと交換条件に、何の根拠もなく、しかも、URLの指定さえせず、ヴィオロンのブログから自分の気に入らない記事を削除せよと、誰にも理解できない不可解かつ一方的な要求を出して来たのである。

一体、杉本が何を削除せよと要求しているのか、民事調停の委員にさえ、その内容は伝わっていない。杉本は、本来、そのような主張を行いたいならば、どの記事を、どのような理由で、削除を求めているのか、具体的に指定した上、なぜ削除を要求することに正当な理由

があるのか、具体的に説明するのが筋であるが、杉本はその手間を一切省き、何の具体的な説明も行っていないのである。

このように、杉本が何を主張したいのかさえ、誰にも明らかでなく、杉本は、自分の主張の具体性、合理性を他人に客観的に分かってもらうための最低限の努力の手間さえ省いているのだから、そんな要求は誰にも理解されず、相手にもされないのは当然である。

それだけでなく、杉本は、自分が名誉毀損罪で告訴され、迷惑行為防止条例違反を警察から警告されているにも関わらず、その事実も一切、答弁書では認めていなかった。

こうして、杉本が自分の主張内容も明らかにせず、事実を事実と認めず、ヴィオロンの主張にいかなる歩み寄りも見せなかったために、民事調停は、和解にも至らず、決裂に終わったも同然の状態にあるのが現在である。

その原因を作ったのは、ろくにまともな答弁書さえ提出しなかった杉本本人である。

にも関わらず、杉本が、そのような自らの無責任で怠慢かつ利己的な行為を棚に上げて、合意にも至っていない民事調停の後、自分が出した一方的な要求に、あたかもヴィオロンが従う義務があるかのように主張している身勝手さには、呆れ果てて苦笑するほかない。

繰り返すが、ヴィオロンは、杉本の要求に従って、記事を取り下げたり、ブログ執筆をやめることなどには全く同意していないし、そんな決定も下されておらず、そんな根拠もない要求に応じねばならない義務もない。

杉本は、自分の主張を訴えたいならば、このように隠れたところで、コソコソと嫌がらせメールを他人に送りつけるという卑怯な手段を取ることをやめて、公の話し合いや争いの場で、具体的に自分の要求を第三者にも分かるように客観的に提示し、妥協もしつつ、公然と争うしかない。

こうして、きちんと公に物事を解決するチャンスが与えられているのに、影でコソコソ嫌がらせメールを送りつけるというやり方でしか、他人にアプローチできないのは、杉本が、自分の主張を、出すべきところに出せば、決して誰にも理解もされず、通用もせず、一方的に「棄却」されて終わるだけだと分かっているからではないのか。正当な方法で、自分の望みを達成できないと分かっていたらこそ、あえて禁じ手を使っているのだと、誰もが考えるのは当然である。

ヴィオロンから見れば、杉本は、もはやあれやこれやの記事をヴィオロンのブログから

削除せよと望んでいるのではなく、ヴィオロンがブログで著述を続けていること自体を、妬ましく、許し難く考えているのだと思われる。ヴィオロンがブログを続けること自体が許せず、不満であるために、このような妨害行為に出ているのだとしか思えない。

杉本には、こうした嫌がらせメールの送信は、今後、一切、やめるよう警告する。それでも、メールの送信をやめないというならば、送信されたメールは、すべて当ブログで分析を加えた上、公開することを予告しておく。その結果、杉本が自らのメールに記した文面や、他人について述べた言葉のために、どのような責任を問われるとしても、ヴィオロンはこれに一切関与しない。

杉本に問題解決をはかる気が少しでもあるなら、警察からも警告を受けている人権侵害の記事を一刻も早く取り下げた上、調停で和解に至るための歩み寄りの努力をし、自分の非をきちんと認め、妥協の態度を示しなさい。それから、他人に要求することである。）

ヴィオロンさんが書かれるとそれは多くの方が読まれるわけですが、唐沢治や坂井能大らの目にも触れるわけです。

前から書いているように、ヴィオロンのブログの読者は多いときでも、平均して一日100人程度である。しかも、現在、その100人のうちどの程度が、さわやか読者であるかも分からない。

にも関わらず、杉本がここまでヴィオロンのブログの記事の影響力を恐れているのは、可笑しい話である。

かつて一日に5千人の読者を誇っていたブロガーとは思えない弱気な発言と言えよう。

むしろ、ブログを公開していれば、色々な人が読むであろうが、杉本ブログもその点は同じである。杉本の書いた様々な教会や牧師のスキャンダルに関連する記事も、これまで大いに読者の物議を醸し、ネタにされて来た。

杉本が唐沢や坂井の名を挙げて、これ以上、ネタにされたくないというならば、まず自分こそ、率先して、彼らのネタになるような記事を真っ先に自分のブログから削除すれば良いだけの話である。仮に唐沢や坂井が何か書いたところで、ヴィオロンはそれに対していかなる責任も負わないし、負う必要もないことである。）

ヴィオロンさんは坂井とは面識はないだろうと思いますが、あなたが別に調停を申し立てた村上密さんにも散々、嫌がらせ中傷をしてきた人物が坂井です。聞いてみた

ことはありませんが、村上さんもおそらく非常に迷惑を被っただろうと思われます。

(この文面にも、杉本のどうしようもない思い込みの強さがはっきりと表れている。杉本は、村上密に心酔するあまり、村上密の思いを「村度」して行動しているつもりなのかも知れないが、「聞いてみたことはない」とか「思われます」といった、確証もない、ただ自分の想像だけに基づく、曖昧な情報を、確定した情報であるかのように第三者に言いふらすことは、ボスをより一層、危険にさらすだけだとまるで分かっていない様子に呆れ果てる。

杉本はかつて村上密に「あなたは思い込みが強い人間だ」と言われて、反省を求められた経緯があるそうだが、その弱点は今も全く変わっていないように見受けられる。それがあがる限り、杉本のやっていることは、杉本がかばおうとしている村上も含め、誰にとっても益にならず、かえって致命的な命取りになる可能性が高い。

杉本は自分で、村上密に「聞いてみたことはない」と宣言しているのに、他人が村上密に嫌がらせに及んでいた事実があるかのように、なぜ、第三者の前で断定できるのか。そのようなことを自分の頭の中だけで想像しているだけならばまだ良いだろう。納得がいかなければ、せいぜいじっくり証拠を集めれば良ろしい。

だが、確たる証拠もなく、誰からの証言もないのに、杉本が、他人が悪事を犯したかのように、勝手に決めつけた上、その情報を無関係な赤の他人に向かって言いふらすと、その行為は、**名誉毀損**や**侮辱罪**に該当する可能性が相当に高くなる。

個人に宛てたメールでも、そこで第三者の陰口を根拠もなく言いふらせば、罪に問われる可能性があることが、自分が刑事告訴されても、まだ分かっていない様子に呆れる。

むしろ、杉本が主張していることが、事実であり、十分な証拠や証言の裏づけがあれば、名誉毀損とはならないであろうが、少なくとも、杉本は、それを事実であることを自分で立証する責任を求められる。立証できなかつた場合には、虚偽の情報を言いふらした罪を問われても、文句は言えまい。

しかも、杉本は自分から坂井に裁判をしかけた過去があるというのに、何という軽率かつ不用心な行動であろうか。報復される可能性を無視できないことを、自ら書き記しているにも関わらず、この始末である。あまりにも現実感覚のない軽率な行動に呆れ果てる。

唐沢や坂井はかつて杉本との裁判に、ヴィオロンのメールを本人に無断で提出したくらいなので、このメールも利用される可能性があることを考えてみるべきではなかったのだろうか。

こうして、わざわざ民事調停という場を通して、親切にも、公に交渉の機会が与えられたにも関わらず、それを自ら蹴るも同然に、相手の主張を一方向的に「棄却」し、自分の身勝手な要求だけを並べた上、さらに、開かれた公の場を無視して、隠れたところでコソコソ嫌がらせメールを送信し続けたりしていると、今後、さらに罪に罪を増し加える自滅的な結果にしかならないのではないかと深刻に危惧される。)

2月23日、日本キリスト教団がCT問題の説明会をした時に坂井は会場にきていました。名前も何も全て秘して参加していたので多くの方は彼が坂井だと気がつかないようでした。

かつて惨敗したCT訴訟が急に風向きが変わり、唐沢も坂井も嬉々として毎日、フェイスブックやツイッターで記事を書き足しています。

当事者だった山谷真さんご本人がまだ静かにしているにも関わらず、野次馬に過ぎない坂井や唐沢らが騒ぎ出すと、前回と同じパターンであり、再度、自滅して失敗する可能性がありうると思い、心配しています。

(CTの問題なども、ヴィオロンには一切無関係である。山谷真氏もヴィオロンとは一切無関係である。一体、何年間、杉本はこうした無関係な赤の他人の噂話をさんざんヴィオロンに吹き込もうと、むなしい努力を続ければ気が済むのか。迷惑でしかない。

いい加減に、学校の教室の休み時間に行われる井戸端会議のようなレベルの、裏づけもない無責任かつ幼稚な内容の噂話をブログやメールに書き記したり、望んでもいない他人にまで送りつけるのはやめるべきだろう。みっともない。

杉本が本気で唐沢や坂井の身の振り方を「心配している」というならば、本人に忠告すれば良いだけだ。

だが、身の振り方を心配すべきは、杉本自身であろう。こうして迷惑行為としてやめるよう警告されているメールを送信し続けた上、そこで第三者の悪口を述べ立てることにより、わざわざネタとなる情報を自ら提供しているのは、杉本自身ではないか。

杉本は一日に千人もの読者が見るような大々的なメディアでなく、影響力も限られている個人のフェイスブックやツイッターの内容や、CTの裁判の動向をよほど気にしているようだが、たかだか個人のフェイスブックやツイッターの記事で何を大騒ぎしているのかと、世間に呆れられるだけである。

杉本は、こうして自分が裁判をしかけた相手の悪口を言いふらすメールを第三者に送りつける行為の方が、よほど危険な自滅行為であると、いい加減、認識すべきであろう。

仮にヴィオロンのブログを誰かがネタにしたり、勝手に剽窃したり、全く別な目的に使用したりしたとしても、その悪事の責任は、その行為に及んだ本人に帰する。悪いのは、ネタにした人間であって、ヴィオロンではない。ネタにされる可能性を100%否定できないからと言って、著述活動をやめることなど決してできない。

なぜなら、ヴィオロンが沈黙すれば、嘘が流布され、真実がより一層、分からなくなり、誰が本当のことを言っているのか、誰にも判別がつかなくなるだけである。信憑性のある事柄を述べていることを示すために、こちらは証拠をきちんと提示して、自分の論を展開している。

それを根拠もなく、善意の忠告を装ったうわべだけの余計なお節介は、いい加減にやめてもらいたい。

以下、今月、坂井から送られてきたメールです。  
ヴィオロンさんが書かれた記事を見て私をからかってきました。文面から彼の人格をお察し下さい。今は47歳前後のはずです。

\*\*\*\*\*

チミも大変みたいだね(大爆笑)

僕チンは僕チンで色々と準備しているからお楽しみに！

\*\*\*\*\*

(杉本がこうして赤の他人の年齢や好ましくない行為などを単なる推測であげつらったりしているのも、自分を標的にした記事を書かれたことが、よほど堪えたためだと見られる。何とかして、笑いものになっているのは自分ではなく、他人であると否定したいのだろう。)

また、添付の画像にあるように唐沢のFBやツイッター

などで「会話」しており、ヴィオロンさんの活動についても笑いものにして楽しんでおり、ヴィオロンさんがあれこれ書かれると彼らに格好の「餌」を与えることにもなってしまいます。

<http://bellsheep.blog.fc2.com/>

[https://twitter.com/yoshihiro\\_sakai](https://twitter.com/yoshihiro_sakai)

(わざわざ親切にも、他人の画像まで送りつけて来たようだが、よほど自分を観察されたり、自分が何者であるかを公開されることを恐れていると思われる。

無責任なツイートを書かれること怖さに執筆活動をやめよというのは、完全に見当外れな主張である。

事実は全く逆だ。興味本位なコメントが投稿されるのは、公の場で訴訟などを起してきちんと物事に決着をつけず、ただネット上だけの痴話喧嘩に明け暮れるせいである。

きちんと公の場で決着をつけさえすれば、誰も無責任な騒ぎなど起こせない。きちんと法的な措置を取らないからこそ、井戸端会議や、野次馬の議論が繰り広げられるのである。)

また、私との訴訟で坂井が認めたことですが、彼はヘビーユーザーの2ちゃんねる使用者で、どういうわけか、奇妙なハンドルネームを使って書き込みをしています。今も使っているかどうかはわかりませんが、

23@◇ngrclJr0Bo

が坂井のHNで、これのアレンジとして、

23@杉本徳久氏、名無しで絶賛出沒中(笑) ◇ngrclJr0Bo

23@サイバンマダァー? (・∀・) っ/□^☆チンチン ◇ngrclJr0Bo

などがあります。ウイルスに感染する危険があるので私は全然見ていませんが、まだ活動しているかもしれません。以前はヴィオロンさんのこともあれこれ書いていました。

(こんな話は、ヴィオロンには関心もない。2ちゃんねるの議論など、知る由もないことであるが、ヴィオロンが沈黙すれば、様々な憶測が生まれるのは当然であるから、ヴィオロンは匿名掲示板などではなく、自らのブログで、具体的な根拠を示して真実を発表するだけ

である。本人の証言以上に重いものはない。

もちろん、キリスト教徒としての信仰告白を続けることは、それ以上に重要であるので、やめるつもりはない。

ネタにされることを恐れて著述をやめるほどに臆病な人間がいるならば、その人は初めから何も書くべきではない。家を建てるに当たって、最初に費用や計画を胸算用しない者がどこにあるか。にも関わらず、ネタにする者が現れるなら、その人間には、それなりの責任を受けて立つ覚悟が当然、必要である。）

明日からは復活祭前の最も重要な聖週間です。本来、この時期にあれこれ申し上げるべきではないですが、もう、あのような記事を書かれるのはお辞めになり、〇〇〇や音楽などの才能を活かして大きく活躍されることを願っております。また、エクソダスなどと言わず、どこか良い教会で安住の信仰生活を送られることも願っております。世の中、端から端までひどい牧師や司祭、教会ばかりではないと思います。

(空々しい善意を装った余計なお世話はもう沢山である。こんな風に、頼まれもせず、望まれてもないのに、他人の人生に介入して行き、余計なお節介をはたらき、見当外れな忠告を繰り返すことは、誰にとっても有害でしかない。他人の生活にむやみに干渉しようと試みることが、聖書では、れっきとした罪に数えられていることを、杉本は知らないのだろうか。

「あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、悪を行なう者、みだりに他人に干渉する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません。」(I ペテロ 4:15)

記事を書くのをやめてもらいたいなら、なおさらのこと、なぜ民事調停できちんと自らの非を認め、しかるべき譲歩をし、問題となった記事を自ら削除した上で、和解の努力をしなかったのかと問い返すのみである。

裁判になれば、当然、今以上に、すべての証拠が公開される。自分が他人に裁判をしかけたのだから理解できるはずだ。これまで、人の個人情報を不当に収集し、無断で公開しておきながら、自ら証拠として公の場に提出したにも関わらず、自分自身の情報だけは公開されたくないと言うのは、幼稚なわがままでしかない。



杉本はこのメールの送信によって、罪に罪を増し加えているだけである。

筆者がキリスト教界や牧師制度からのエクソダスを唱えていることは、杉本には関係ない話で、大きなお世話である。しかも、自分のブログであれほどプロテスタントの牧師や教会を次々と批判して、教会の不祥事を追及し、諸教会の評判を貶めておきながら、今更、「世の中、端から端までひどい牧師や司祭、教会ばかりではない」などと言っても、世間は、お前がどの口で言うのかと、その自己矛盾に、呆れ、笑うだけで、そんな言葉を誰も信じる者はない。

いい加減、人の箸の上げ下げに至るまで、他人のしていることにいちいちケチをつけては干渉せずにはいられない、小姑のような性格とは訣別し、自分の心配と、自分の人生の立ち直りにこそ、心血を注ぐべきであろう。

早く村上密と訣別し、アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団で受けた心の傷を癒されることをお勧めするが、多分、こうした忠告も無駄に終わるのだろう。)

四旬節、最後の週にて。

草々

杉本徳久

(このメールからも、杉本がこれまで以上に、表面的な儀式や祝祭日に熱中し、「霊と真理によって神を礼拝する」ことからますます遠ざかっている様子がよく分かる。

杉本の言動は、すべて自己矛盾しており、論理破綻をきたしている。自らブログでプロテスタントの諸教会や牧師を批判しながらも、他人に向かって教会や牧師の良さを唱え、アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団と訣別することもできずに、未だプロテスタントの牧師を擁護しているなど、どこまで自己矛盾を認識できないのかと精神の正常性を危ぶむのみである。儀式を通して神に近づくことはできない。見せかけの敬虔さを追い求めているうちに、この先、ますますキリストを見失って行くだけであろう。

「だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことでだれにも批評されてはなりません。これらは、やがて来るものの影にすぎず、実体はキリストにあります。偽りの謙遜と天使礼拝にふける者から、不利な判断を下されてはいけません。こういう人々は、幻で見たことを頼りとし、肉の思いによって根拠もなく思い上がっているだけで、頭であるキリストにしっかりと付いていないのです。」(コロサイ 2:16-19)

杉本徳久 Sugimoto Norihisa <sugimotonorihisa@gmail.com>

\*メール文中では、ヴィオロンの名はすべてペンネームを使用した。



\*以上は杉本が添付した画像。他にも、第三者の画像があったが、それは他人の肖像権に関わるものであるため公開しない。杉本がこうして他者の肖像権を犯し、写真の流布を続けていることも、もちろん、権利の侵害として訴えられて当然であろう。

当ブログでは、先の記事でも、杉本が調停で出て来た証拠の一つとして、唐沢のメールを公開し、そこで、坂井の裁判をヴィオロンが「支援したい」と述べたとか、ヴィオロンがその裁判に自分のメールを証拠として提出することに同意したかのように、事実と反する虚偽を述べて、ヴィオロンの個人情報無断で流出させたことを正当化していることや、杉本がヴィオロンを告訴する/しないは杉本の自由であるなどと述べ、杉本の嫌がらせに反対もせず、さらに杉本との間に遺恨を残すことは本意でないなどと述べて、対立しているのはうわべだけのポーズでしかないという本心を、自ら表明していることを示した。

こうして杉本が添付した唐沢のツイート内容からも、唐沢のそういう不誠実な言動を裏づけていると言えよう。唐沢は、杉本をヴィオロンにぶつけることで、両者が相打ちでもしてくれば、ヴィオロンが唐沢とKFCのミニストリーについて書き記した不都合な情報が抹消されて、御の字だと考え、杉本がヴィオロンに争いをしかけることを大歓迎していたのではないかと思われてならない。そうした心中が以上のツイートからもよく読み取れる。何を書くのも勝手だが、文章を通して、それを書いた人物の空疎な人格と、マインドコントロールされている信者の薄っぺらい人間性が、一般の読者に伝わらないと思うのは大きな間違いだ。

唐沢治も、村上密も、宗教指導者を名乗っているにも関わらず、自分が遭遇している諸問題に、一人で向き合う勇気もなく、常に自分の取り巻きや信奉者を盾のように利用して、自

分をかばって来た。そうしてマインドコントロールされた人物たちは、さんざん道具として利用された挙句、最後には、指導者の罪を身代わりにかぶらされて、使い捨てられる。

そこで、読者らは、こうした実例を通して、牧師制度というものが、どれほど聖書に反する、諸悪の根源、腐敗に満ちた悪であるか、また、牧師制度の前にひざまずく信者がどれほど不幸な運命を辿るかについて、よくよく考えてもらいたいと思う。

改めて、万民祭司のこの時代、信者一人一人は、目に見える人間の指導者を介さずに、信仰によってキリストと直接結ばれ、直接、神の御前に進み出ることが許されているのであり、その特権を無碍に扱い、再び人間の奴隷となってひれ伏すことで、その尊い自由を自ら傷つけ、失うことがないように注意したい。